

令和6年度 社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会事業報告

1. 報告概要

全国的に少子高齢化や核家族化、人口減少が進み、支え合いの必要性、重要性が増していく中、地域では社会的なつながりが希薄化し、支え合いの基盤が弱まりつつあります。

新型コロナウイルスが5類へ移行となってから1年が経過し、地域活動も再開され、人と人との繋がりや支え合いの機会が増えつつあります。一方で、賃金のベースアップや最低賃金の改正等により、世帯収入の増加が見込まれていますが、資源価格や消費物価の高騰は続いており、生活困窮世帯や企業を取り巻く環境は未だ厳しいものとなっています。

こうした情勢を踏まえ、令和6年度から第4期気仙沼市社会福祉協議会地域福祉活動計画を策定し、基本理念「地域でみんながふれあい支え合って自分らしく安心して暮らせるまちづくり」を目指し、気仙沼市、地域住民、地区社協等の福祉組織・関係者との協働、連携、調整を通じて、多様かつ複雑化している地域生活課題の解決に繋がる体制作りを進めてまいりました。

【重点目標への取り組み】

1 法人の組織体制と基盤の強化

社会福祉協議会が誰もが住み慣れた地域で生活できるまちづくりを目指すためにも、法人の運営を長期にわたり継続させることが求められます。地域社会を取り巻く環境を十分に認識し、ガバナンス（経営規律）の強化と法令遵守の徹底、職員人材育成の強化に取り組むとともに、厳しい経営状況が続いていることを踏まえ、組織体制の再編、事業の効果測定とコストの適正化など、財政の安定化に向け経営基盤の強化を図り、将来を見据え持続可能な組織を確立していくため、経営状況を適切に判断して責任と透明性のある運営に努め、社会的使命を果たせるよう取り組みました。

2 地域福祉活動の推進に向けた取り組み

（1）担い手の育成と活動支援

人口減少が進行していく中で地区社協をはじめとする関係団体では、高齢化が進み後進の育成が急務となっています。また、地域福祉の担い手不足にも直面しており、担い手の育成は重要課題となっています。本会では、地域住民を対象に地域福祉推進フォーラムを開催し、地域の誰もが地域福祉推進の担い手であることへの理解を深めるとともに、朗読ボランティアや災害ボランティアセンターに関する研修会を開催し、市民ボランティアの育成に取り組みました。市民ボランティアの活動については、ボランティアセンターの機能を活かし、ボランティア活動の相談、調整等の業務を行い、活動の支援に取り組みました。

（2）地区社協活動への支援

地域福祉推進に向けた取組は、地区社協との連携が重要であることから、地区社協に対する活動支援として、会費の一部を活動補助金として交付したほか、小地域福祉活動の取り組みに対する補助金制度など財政面での支援を行っています。また、住民懇談会や地区社協で実施される事業における相談、連絡、調整など可能な範囲で支援を行い、さらに地区社協会長会議による情報共有に努めました。担い手不足から、活動が停滞している地区社協もありますが、今後も基盤整備に対する

支援を行いながら、地域福祉活動の中核となる地区社協の支援を推進していきます。

3 介護保険事業・障害者福祉サービス事業の質向上と健全経営

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となっても、利用者や家族、職員の感染によって本会事業の利用控えにより、収入が減少となる月がありましたが、利用者のニーズに応えるべく、可能な限り施設を開所できるよう感染拡大防止に努めたほか、利用者の施設見学を積極的に受け入れ、利用者確保にも努めました。全体では当初予算を上回る結果となり、初期の目標を達成することができましたが、事業所単位で見ると、予算の繰入を必要とした事業所が見受けられました。また、サービスの質の向上やニーズに応じたサービスの提供及び改善に向け、事業管理者会議や事故防止対策委員会、事業所ごとの研修会を開催しています。また、職員の高齢化と離職により事業従事者及び専門職の確保が難しくなっていることから、退職制度や処遇改善手当の見直しなど、職員が働きやすい環境を整備し、資格取得に対する助成制度を創設するなど、人材の確保に向けた取り組みを実施しました。今後も、地域住民に支持・信頼されるサービス事業者となれるよう鋭意努力します。

4 組織改革と経営基盤の強化

これからの地域ニーズに対応していくためには、社協の存在は必要不可欠です。社協の使命を果たせるよう、地域住民の安心・安全な生活を目指すためにも、役職員が一丸となって地域福祉に取り組む必要があることから、持続可能な責任のある自律した組織運営と経営基盤の強化に取り組みしました。

(1) 持続可能で責任ある組織経営

社会福祉協議会は、社会福祉法により各市町村に設置することとされていますが、その運営は各市町村社協に委ねられています。地域福祉を推進する立場にある社会福祉協議会は、その目的を達成するために、法人運営を堅実なものとし、住民から信頼される組織であることが求められます。地域に開かれた組織としての透明性の確保を図るため、あらゆる関係者の参加と協働を徹底し、理事会や評議員会、監査会等により、責任ある組織的な経営を行ってまいりました。今後も、すべての役職員は法令を遵守し、高い倫理意識を持ち、今後も地域の信頼を得られるよう組織運営に取り組みます。また、入職者に対してはオリエンテーションを行い、社協職員として職務を遂行できるよう人材の育成に着手しています。

(2) 組織の見直しと経営基盤の強化

本会の財政状況は、数年にわたって厳しい状況が続いていることを踏まえ、組織全体でコストの見直しを図るため、支援業者と委託契約を締結しコストの適正化に向けた取り組みを実施しました。また、気仙沼市からの運営費補助金は、厳しい財政状況から増額の見込みは難しく、社協の経営改善策について、行政との話し合いが必要です。また、地域福祉活動拠点の本設については、社協の性質上、公共施設が望ましいと考えられることから、今後の市の計画の進行状況を踏まえ、行政との情報交換を行い、引き続き検討していきます。

1. 法人運営事業

事業名	内 容
理事会の開催	【概要】法人の執行機関として理事会を開催し、法人の適正な運営に努めました。 ① 令和6年6月11日（火）午後1時30分 出席者 理事12人 監事2人 - 令和5年度事業報告及び決算について【同意】 - 社会福祉充実残額の報告について【同意】 - 令和6年度資金収支補正予算（案）について【同意】 - 定時評議員会の招集について【同意】 追加議案 - 定時評議員会に提案する補欠理事候補者の選任同意について【同意】 - 評議員選任・解任委員会に提案する補欠評議員候補者の選任同意について【同意】 - 定時評議員会の招集について【同意】 ② 令和6年6月26日（水）午後3時30分 出席者 理事12人 監事3人 - 会長の選定について【同意】 - 特定相談支援事業及び指定障害児相談支援事業及び指定障害児相談支援事業所運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 - 副会長の選定について【同意】 - 顧問の推戴について【同意】 ③ 令和7年3月17日（月）午後1時30分 出席者 理事14人 監事2人 - 育児休業及び介護休業等に関する規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンターの設置及び運営に関する規程の一部を改正する規程制定について【同意】 - 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター生活支援員設置要綱の一部を改正する要綱制定について【同意】 - 令和6年度資金収支補正予算（案）について【同意】 - 令和7年度事業計画（案）について【同意】 - 令和7年度資金収支予算（案）について【同意】 - 役員等賠償責任保険契約について【同意】 - 評議員会の招集について【同意】 【成果】業務執行の決定、理事の職務執行の監督などの職務を担い、社会福祉法人の執行機関として適正な運営に取り組むことができました。 【決算額】 117,000 円

評議員会の開催	【概要】法人の議決機関として、評議員会を開催し、法人の適正な運営に努めました。 ① 令和6年6月26日（水）午後1時30分 出席者 評議員19人 理事3人 監事3人 1 補欠理事の選任について【承認】 2 令和5年度事業報告及び決算について【承認】 3 社会福祉充実残額の報告について【承認】 4 令和6年度資金収支補正予算（案）について【承認】 ② 令和7年3月28日（金）午後1時30分 出席者 評議員17人 理事3人 監事3人 1 令和6年度資金収支補正予算（案）について【承認】 2 令和7年度事業計画（案）について【承認】 3 令和7年度資金収支予算（案）について【承認】 【成果】法人運営に係る重要事項の議決機関として、様々なご意見をいただきながら、法人の健全経営や地域福祉事業に関する事項について承認をいただくことができました。 【決算額】 141,000 円
監査会の開催	【概要】理事の業務執行状況及び法人の財産状況の検査のため、次のとおり監査会を実施しました。 ① 令和6年5月23日（木）、5月24日（金） 1 令和5年度理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について ② 令和6年11月21日（木）、11月22日（金） 2 令和6年度上半期理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について 【成果】理事の業務執行の状況及び法人の財産等の状況について、厳しい財政との意見をいただき、その状況を職員間で共有し、経費の節減や稼働率の改善に鋭意努めております。 【決算額】 156,000 円
評議員選任・解任委員会	【概要】評議員に欠員が生じたことから、新たな評議員を選任するために開催しました。 ①令和6年6月14日（金）午前10時 1 補欠評議員の選任について 補欠評議員1人選任 【決算額】 15,000 円

【1】 会員数〈会費〉

一般会費〈令和6年度決算〉	17,188世帯	5,156,400円
〈令和5年度決算〉	17,144世帯	5,143,200円
賛助会費〈令和6年度決算〉	1,821世帯	1,890,000円
〈令和5年度決算〉	1,969世帯	1,997,000円
特別賛助会費〈令和6年度決算〉	89法人・9個人	890,000円
〈令和5年度決算〉	92法人・7個人	895,000円
団体会費〈令和6年度決算〉	13団体	39,000円
〈令和5年度決算〉	13団体	39,000円

【2】 役員・評議員

理 事 15人 令和7年3月31日現在

監 事 3人 令和7年3月31日現在

任期：令和5年6月24日から令和6年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：理事13人以上16人以内

監事3人以内

評議員 28人 令和7年3月31日現在

任期：令和3年6月24日から令和6年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：28人以上33人以内

【3】 評議員選任・解任委員会

委員 5人 令和7年3月31日現在

任期：令和6年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：5人

令和6年度 会費納入及び助成金交付状況

令和7年3月31日現在 (単位：円)

地区社協	納入			交 付				小ネット ・モデル 地区社協	給食 サービス	合 計
	一般会費	賛助会費	特別賛助 会費	活 動 費 助 成			合 計			
				一般会費	賛助会費	特別賛助 会費				
西	600,000 2,000	146,000 113	100,000 11	200,000	43,800	20,000	263,800			
上	343,500 1,145	377,000 368	80,000 9	114,500	113,100	16,000	243,600	11,400	144,200	
中央	105,000 350		5,000 1	35,000	0	1,000	36,000		22,200	
魚町	84,900 283	100,000 96	20,000 2	28,300	30,000	4,000	62,300			
南町・柏崎	0	0	0	0	0	0	0			
南	91,500 305	36,000 36	35,000 4	30,500	10,800	7,000	48,300			
鹿折	445,200 1,484	216,000 212	465,000 52	148,400	64,800	93,000	306,200	3,000		
松岩	705,900 2,353	361,000 361	60,000 6	235,300	108,300	12,000	355,600	5,700	79,200	
新月	420,000 1,400	380,000 361	85,000 9	140,000	114,000	17,000	271,000	12,500		
階上	354,600 1,182		0	118,200	0	0	118,200	77,100		
大島	250,200 834	75,000 75	0	83,400	22,500	0	105,900	9,200		
面瀬	360,000 1,200	184,000 184	30,000 3	120,000	55,200	6,000	181,200	22,500		
唐桑	527,400 1,758	15,000 15	10,000 1	175,800	4,500	2,000	182,300	2,200		
小泉	118,800 396		0	39,600	0	0	39,600			
津谷	421,200 1,404	0	0	140,400	0	0	140,400	27,300		
大谷	328,200 1,094	0	0	109,400	0	0	109,400	70,500		
合計	5,156,400 17,188	1,890,000 1,821	890,000 法人89 個人9	1,718,800	567,000	178,000	2,463,800	415,700	71,300	0

※下段は加入者数

※団体会員 13団体 39,000円

2. 地域福祉事業

事業名	内 容
地区社協会長会議の開催	【概要】住民参加による地域福祉活動の推進を図るため、福祉圏域ごとの取り組みや運営面等の情報交換・共有する機会として会長会議を開催しました。 【実績】3回開催 ①令和6年6月24日 - 第4期気仙沼市社会福祉協議会地域福祉活動計画について - 気仙沼市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進連絡会議委員の推薦について - 令和6年度市社協地域福祉事業（地区社協関連）について ②令和6年7月30日 - 令和6年度市社協地域福祉事業（地区社協関連）について - 令和6年度 赤い羽根街頭募金について - 令和6年度 市社協会費の取り組みについて - 意見交換 ③令和6年12月20日 - 令和6年度歳末たすけあい募金配分事業について - 地区社会福祉協議会活動助成配分について 【成果】地区社協活動の活性化を支援するための各種補助金の説明と活用呼びかけや、市社協会費への理解と協力についてお願いしたほか、各地区の今年度事業内容や取り組み状況について意見交換を行いました。 【課題】取組や運営面などに課題を抱えている地区社協もあることから、相互の活動がより活発になるよう、情報交換の充実に努めます。また、市に対して、より一層の地区社協活動への理解が得られるような働きかけが必要ではないかとの意見も出されています。 【今後の取組】今後も幅広い意見の聴取と地区社協間の情報交換・共有などの充実に努めるとともに、市社協と協働事業の働きかけや情報提供、相談対応を継続しながら住民参加による地域福祉活動を推進します。 【決算額】 159,308 円
地域福祉活動計画の推進と進行管理	【概要】第4期地域福祉活動計画で掲げている基本目標の達成に向けて、進行管理のための連絡会議及び推進委員会を組織し、具体的な取り組みの進捗状況の把握・評価を行いました。 【実績】地域福祉活動計画推進連絡会議 2回（12月、3月） 地域福祉活動計画推進委員会 2回（1月、3月） 【成果】令和6年度から5か年の計画期間に係る第4期地域福祉活動計画を策定し、単年度ごとの取組方針・目標に基づき取り組みを進めました。 【課題】計画の進行管理に向けた各種会議が未開催となっていることから、早期の会議開催により、計画に基づく各種事業の進捗状況の把握や

	意見等をいただくことで、目標達成に向けた取り組みを進めていく必要があります。 【今後の取組】第４期計画に基づく着実な事業進行に向けて、市担当課と密に連携しながら取り組みます。 【決算額】 187,178 円
小地域福祉活動の推進	【概要】誰もが地域の中で安心して生活できるよう住民同士が協力し、見守り、助け合い、支え合う 小地域福祉活動を推進しました。 【実績】小地域福祉活動補助金交付 7 地区社協 【成果】地域支え合い推進員と連携しながら、地域活動の必要性や成果を伝えながら、活動が継続できるよう小地域福祉活動補助金についての周知を行い、積極的な活用を促しました。その結果、補助金を交付した団体が昨年より 4 地区増加しました。 【課題】小地域福祉活動補助金を活用する団体が昨年より増えましたが、地域で有効活用できるよう補助金交付規程の見直しを行い、申請手続きの簡素化を検討する必要があります。 【今後の取組】引き続き、地区社協はじめ地域の情報把握に努めながら、活動が活発に行われるよう必要な支援を行います。また、小地域福祉活動補助金について、利用しやすいものとなるよう検討します。 【決算額】 240,704 円
生活相談所の運営	【概要】気仙沼地域では社協本所相談室で週４日（月、火、水、金）午前９時から午後３時まで、本吉地域では本吉支所で毎週月曜日の午前９時３０分から午前１１時３０分まで生活相談所を開設し、生活上の心配ごとや悩みごとの解決に向けて相談事業を実施しました。 【実績】 ①生活相談所 気仙沼地域：相談員２人 開設日数１８４日 相談件数 ８件 本吉地域：相談員４人 開設日数 ４２日 相談件数 ２件 ②相談員連絡会議 本吉地域 ５月１３日（月） ③移動生活相談 津谷公民館 ９月２日 ０件 ④無料法律相談 ９月２日（月） 相談件数 ６件 ⑤広報啓発 社協だよりに相談窓口について掲載し、周知を行いました。 【成果】相談の内容に応じて、傾聴や他機関への紹介・助言等を行いました。 【課題】相談員としての資質向上と相談所機能の活性化が必要です。 【今後の取り組み】気軽に相談できる場として移動生活相談を定期的の実施するとともに、相談所機能の活性化に向けた話し合いの場を設け、実施体制の見直しを図ります。また、積極的に研修会に参加し、相談員の質の向上を図ります。 【決算額】 1,012,528 円

広報・啓発	【概要】広報紙「気仙沼市社協だより」を発行し、全戸及び関係機関に配付しました。また、ホームページのほか、公式 LINE を活用し、よりリアルタイムでの情報発信に努めました。 【実績】社協だより発行回数 6 回 ホームページ更新回数 42 回 LINE 更新回数 32 回 【成果】広報紙を活用し、地域の活動や本会事業の発信ができたほか、義援金の募集や助成金の案内など即時の情報発信を行うことができました。また、事業告知の際に QR コードを合わせて掲示するなど、住民の方々がより申し込みをしやすいように工夫を行いました。ホームページについては、実施した事業に関連するページの閲覧が増えるなど、情報の確認媒体として機能しています。 【課題】広報紙は、おおよそ 2 か月に 1 回の発行のため、事業の告知、及び実施報告が掲載できないことがあります。 【今後の取組】ホームページ等を活用し、事業の様子などを掲載することで本会活動の「見える化」を図ります。また、各媒体に合わせ、より伝わりやすい広報・啓発活動に努めます。 【決算額】福祉育成援助活動事業 2,430,850 円
地域福祉推進フォーラム	【概要】住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていくためには地域の実情に応じた「つながり」「支え合い」の仕組みづくりが今後ますます重要になることから、地域で支え合う大切さを共に考える機会として、支え合い意識の醸成と活動の推進を目的に地域福祉推進フォーラムを開催しました。 【実績】事業① 地域支え合いフォーラム 開催日 令和 6 年 7 月 2 5 日（木） 会 場 気仙沼中央公民館ホール 参加者 1 2 9 名（地区社協、ボランティア・NPO、民生委員・児童委員、自治組織、地域包括支援センター、福祉団体、まちづくり協議会、市社協役員 等） 事業② お互いさまで支え合う地域づくりを考える講演会 会 場 市民福祉センターやすらぎ 参加者 8 0 名（市社協役員、地区社協、ボランティアクラブ、民生委員・児童委員、地域支え合い協力員、地域包括支援センター職員、一般住民 等） 【成果】参加者アンケート結果によれば参加者からは高評価でした。参加者の多くがこれまでの活動を誇りとし、これからの活動への後押しになったという声が多く聞かれました。 【課題】講師招へいの都合上、平日開催となったこともあり、会場収容数に対して参加者が少数程度であったことから、次年度以降は実施時期や時間帯検討を十分に行う必要があります。 【今後の取組】引き続き、今後も様々な機会を捉えながら地域で行われている「支え合い」の活動の情報提供により、市民と一緒に地域福祉活動を進めます。 【決算額】 73,234 円

本吉地域福祉まつり	【概要】昨年度に引き続き、地域振興会単位で住民が主体的に集い交流する場づくりへの支援とともに、住民相互のふれあいと支え合いによる福祉コミュニティづくりを推進することを目的とした「本吉地域福祉まつり（全体会）」を開催しました。 【実績】津谷地域パークゴルフ大会 令和6年7月14日（日） 本吉地域福祉まつり 令和6年12月1日（日） 【成果】地域開催については、地域住民の健康保持及びつながりづくりの一助となりました。本吉地域福祉まつりは、5年ぶりの開催で課題もありましたが、実行委員や地域の協力をいただき、地域活動の周知やつながりづくりの機会になりました。 【課題】本吉地域福祉まつり全体会は開催時期が冬季となり、準備期間も短く、多くの課題を残す結果となりました。地域行事も復活していることから時期を考慮する必要があります。地域のボランティアなどの人数も減少していることから、実行委員会に提示する前に予め内容を固めておくことも必要でした。 【今後の取組】本吉支所関連事業所の職員で準備委員会を立ち上げ、創意工夫を重ねて実行委員会に提示できるよう話し合い、支え合いの地域づくりを一層進めていけるよう、「本吉地域福祉まつり（全体会）」開催の機会を大切に、協力や支援をいただきながら実りあるものとなるよう進めていきます。 【決算額】 259,758 円										
善意銀行の運営	【概要】市民から多様な善意の預託を受け、その善意を地域生活支援及び住民参加による地域福祉の増進に資するよう効果的な活用に努めました。 <table><tr><td rowspan="2">【実績】 預託</td><td>金銭 15 件</td><td>717,902 円</td></tr><tr><td>物品 2 件</td><td>（タオル、バスタオル、米）</td></tr><tr><td rowspan="2">払出</td><td>金銭 15 件</td><td>717,902 円</td></tr><tr><td>物品 2 件</td><td>（同上）</td></tr></table> 【成果】寄付者の意向に沿い、地域の団体等への効果的な払い出しができました。 【課題】善意銀行への寄付者の減少が見られます。 【今後の取組】速やかな事務処理に努めるとともに、必要に応じ広報による周知を図ります。 【決算額】 736,198 円	【実績】 預託	金銭 15 件	717,902 円	物品 2 件	（タオル、バスタオル、米）	払出	金銭 15 件	717,902 円	物品 2 件	（同上）
【実績】 預託	金銭 15 件		717,902 円								
	物品 2 件	（タオル、バスタオル、米）									
払出	金銭 15 件	717,902 円									
	物品 2 件	（同上）									
地区社協活動費助成事業	【概要】地区社協が実施する地域・在宅福祉に関わる事業活動に関する補助金を交付し、地区社協活動を支援しました。 <table><tr><td>当該地区普通会費納入額の</td><td>1 / 3</td><td>相当額</td></tr><tr><td>〃 賛助会費納入額の</td><td>3 / 10</td><td>相当額</td></tr><tr><td>〃 特別賛助会費納入額の</td><td>2 / 10</td><td>相当額</td></tr></table>	当該地区普通会費納入額の	1 / 3	相当額	〃 賛助会費納入額の	3 / 10	相当額	〃 特別賛助会費納入額の	2 / 10	相当額	
当該地区普通会費納入額の	1 / 3	相当額									
〃 賛助会費納入額の	3 / 10	相当額									
〃 特別賛助会費納入額の	2 / 10	相当額									

	【成果】補助金の交付により、地区社協活動への支援ができました。 【課題】小地域福祉活動の推進や生活支援体制整備事業など、地区社協活動の促進及び協力を進めるための財源の確保が課題です。 【今後の取組】地区社協と市社協が一体となり、様々な場面を通して事業活動の理解促進に努め、震災により減少した会員や新規会員の確保に努めます。 【決算額】 2,463,800 円
屋内ゲートボール場の運営	【概要】市民福祉の向上、とりわけ高齢者の健康増進及びゲートボール競技によるスポーツ振興を図ることを念頭に運営しました。気仙沼市ゲートボール協会に管理運営を委託しています。 【実績】開場日 104日 利用者延べ 616人 【成果】競技人口の減少や高齢化に伴い利用実績は減少していますが、練習や試合を通じた交流の場として活用されており、シニア層の生きがいづくりや健康の維持増進等の一助となっています。施設周辺の松林の立ち枯れが進んでいることから、倒木による危険箇所については引き続き気仙沼市との連絡調整等を進めています。 【課題】管理運営を依頼している気仙沼市ゲートボール協会の組織運営状況を把握しながら、来年度以降の運営に関して同協会との意見交換を行います。 【今後の取組】引き続き気仙沼市ゲートボール協会への管理委託を通して健康増進の一助になるよう、また、施設を他競技等での有効な活用ができるよう協議しながら運営してまいります。 【決算額】 898,880 円
気仙沼市市民福祉センター 管理運営業務	【概要】気仙沼市市民福祉センター条例及び基本協定書に基づき、社会福祉を目的とする市民の相互交流及び高齢者並びに障害者の自立の促進と健康の増進を図り、地域福祉の向上に努めました。 【実績】 利用回数 1,450回 利用者数 15,480人 【成果】新型コロナウイルスが5類に移行したことで、利用のキャンセルが減少するとともに、利用者数が増加となり、福祉団体をはじめとする市内各団体に活用いただき、地域福祉の拠点施設としての役割を概ね果たすことができました。 【課題】経年劣化等により、備品の故障や部品交換など修繕を要する箇所がみられるようになりました。 【今後の取組】施設の設置目的を基本としながら、地域福祉の拠点となるよう管理運営に努めます。 【決算額】 16,413,145 円

気仙沼市唐桑保健福祉センター及び気仙沼市福祉の里 野外施設管理運営業務	【概要】気仙沼市保健福祉センター条例及び気仙沼市福祉の里野外施設条例並びに指定管理に係る基本協定書に基づき、市民の健康保持・増進及び地域福祉の推進を図るため、適切な施設の維持管理に努めました。 実績】 利用回数 3 6 2 回 利用者数 5, 0 2 9 人 【成果】定期的な福祉団体の利用に加えて、地域の福祉活動を再開する団体もあり、野外施設では防災訓練や部活動、健康増進等での利用も増加し、地域に密着した福祉活動の拠点として安定した運営ができました。 【課題】施設・設備等に経年劣化、更新が必要な箇所が多く見受けられるようになりました。 【今後の取組】利用者が安全に施設を活用できる環境を維持するために、施設設備の定期点検に加え、計画的な修繕・更新を行います。また、施設がより多くの人にとって使いやすく、地域に根ざした拠点となるように、利用者の意見や要望を取り入れ、施設の利用促進と持続可能な管理運営に努めます。 【決算額】 14,433,550 円
--	---

3. ボランティアセンターの運営

事業名	内 容
ボランティア相談・調整等事業	【概要】ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの相談・ニーズの受付・調整・派遣等、ボランティアの育成・啓発を推進するとともに、相互理解と互助によるボランティア活動の機運の醸成に努めました。 【実績】ボランティア相談 12 件 調整 13 件 ボランティア受付協力 1 件 【成果】ボランティア相談に応じ、活動の調整を行いました。また、気仙沼災害派遣ボランティアセンターに協力し、能登半島地震災害への災害ボランティアの受付を行いました。 【課題】概ね相談内容に応じた調整を行うことができましたが、希望する活動内容が事前の講座の受講が必要なものもあり、すぐに対応できない相談もありました。 【今後の取組】ボランティア活動希望者への定期的な声掛けなどを行い、つながりを保ちつつ、各種ボランティア講座を開催し、活動者の育成とスキルアップを図ります。 【決算額】 ボランティア活動育成事業 1,228,570 円 ふれあいのまちづくり事業 155,638 円
ボランティア保険の加入	【概要】ボランティアの方々が安心して活動できるよう、ボランティア保険の加入手続きを行いました。 【実績】加入者 1033 人（前年度 993 人） 上記のうち、ボラ保険掛金一部助成を受けた方 555 人 （前年度 671 人） 事故発生・報告件数 0 件 【成果】安心してボランティア活動ができる環境の整備に努めました。 【課題】ボランティア保険加入者の減少が見られます。 【今後の取組】制度を知らない活動者もいると思われることから、制度の周知を図り、活動者が安心して活動できる環境づくりに努めます。 【決算額】ボランティアセンター事業 166,500 円
災害ボランティアセンター準備・運営研修	【概要】ウェザーハート災害福祉事務所の千川原公彦氏を講師に迎え、大雨や大地震等による災害に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営や生活復興のための支援について学びました。 【実績】日 時：令和 7 年 3 月 1 日 場 所：気仙沼市市民福祉センター「やすらぎ」 参加人数：24 名 【成果】地区社協や民生委員、ボランティアなどに加え、気仙沼青年会議所の方々にもご参加いただき、顔の見える関係づくりを行うことができました。 【課題】50 名程度を想定して開催いたしましたが、参加人数の伸び悩みが見られます。 【今後の取組み】青年会議所よりご参加いただいた方の中には、協定の

	ことを研修の中で知った方もおり、定期的に講座を開催し、会員の皆さんにご参加いただく必要性和普段からの顔の見える関係づくりを行います。 【決算】ボランティア活動育成事業 40,470 円
災害ボランティアセンター運営支援のための職員派遣	【概要】災害時相互支援協定に基づく宮城県社協からの要請により、被災地の災害ボランティアセンター運営支援に係る職員派遣を行いました。 【実績】①能登半島地震災害に係る職員派遣 派遣先 石川県珠洲市災害ボランティアセンター 派遣期間 7月12日～18日（地域福祉課職員） ②7月25日からの豪雨災害に係る職員派遣 派遣先 山形県戸沢村災害ボランティアセンター 派遣期間 9月6日～10日（唐桑支所職員） 【成果】派遣内容に応じて、ボランティア登録者と活動内容の調整（マッチング）作業や被災者宅の訪問調査等の活動支援を行いました。 【課題】災害時相互支援協定に基づき対応するものですが、時期や職員体制により、県社協から要請があった都度での対応が難しい状況です。 【今後の取組】今後の本市における有事に備え、災害ボランティアセンター運営未経験の職員にも関わっていただく機会として、今後も積極的に派遣調整をしながら、本会として災害ボランティアセンター機能の強化に努めます。 【決算額】ボランティア活動育成事業 217,610 円

4. 福祉教育

事業名	内 容
行事参加協力調整事業 (高校生ボランティアの活動調整)	【概要】市内の福祉施設等から高校生ボランティアの派遣を依頼された際に、市内の高等学校の協力を得てボランティアを募ります。 【実績】ボランティア相談 4件 調整 6校 【課題】学校行事や他の行事との兼ね合いや、ボランティア部の部員の減少などにより、協力をいただくことが難しい場合があります。 【今後の取組】学校におけるボランティア活動の現状についての現状把握と担当教諭との連携強化を目的として、各校のボランティア部との意見交換の場について検討します。
福祉教育・企業・団体への職員派遣事業	【概要】学校からの福祉教育体験の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。実施方法については、先方の要望に応じて内容を相談の上で行いました。 【実績】 出前講座 : 小学校 4校 延べ5回 中学校 3校 延べ3回 高等学校 1校 延べ1回 地域団体 1団体 延べ1回 内 容 : 高齢者疑似体験、車いす体験、視覚障がい体験、ボランティア講話、防災すごろく、ボッチャ 対 応 : 社協職員ほか、地区社協、ボランティア協力 【成果】地区社協やニュースポーツの団体と連携した福祉教育の実施を行い児童・生徒の思いやりの心を育むことができました。また、地域団体から出前講座の依頼があり、体験を通じて障がいに関する理解を深めていただくことができました。 【課題】体験中心の協力依頼を頂くため、体験後に受講者がどのような学びを得たか把握することが難しい状況にあります。 【今後の取組】福祉教育に協力していただける関係団体との連携を図りつつ、子どもたちや住民の方々が福祉について理解を深め、思いやりの心を育めるような福祉教育の実施に努めます。

福祉教育意見交換会	【概要】気仙沼市内の各学校における福祉教育の取組状況や課題、取組に向けた希望等を把握し、今後の福祉教育の充実を図るために実施しました。 【実績】日 時：令和6年10月23日（水） 場 所：気仙沼市市民福祉センター「やすらぎ」 参加人数：21名 【成果】市内の小・中学校と地区社会福祉協議会、そして県社会福祉協議会をつなぎ、それぞれの立場から福祉教育に関する貴重な情報交換の機会を得ることが出来ました。 【課題】市教育委員会及び市内の全小学校にご案内と声掛けを行いましたが、学校関係者の参加は少人数に留まりました。また、福祉教育に関わる社協職員同士が、各体験学習の効果的な進め方について情報交換等を行う場や適切な情報提供ができる仕組みづくりが必要です。福祉教育に対して学校や地域の声や考えを聞くことができた半面、アンケートが学校対象であったことから、福祉教育＝学校で行うイメージが強く出てしまいました。地区社協の方々も参加しているので、地域での福祉教育にも触れることも必要であったと感じました。 【今後の取組】今後も、学校と地域と意見交換を行える機会を定期的に設け、地域に根差した福祉教育の充実に努めます。 【決算】福祉育成援助活動事業 4,022 円
福祉教育活動費補助金交付事業	【概要】継続した福祉教育・ボランティア学習の支援を行うため、市内小・中・高等学校に補助金を交付しました。 【実績】補助金申請校数 小学校 4校 48,815 円 中学校 1校 5,000 円 高 校 1校 3,910 円 【成果】市内の学校に福祉教育活動費補助金を交付し、継続した福祉教育の支援を行うことができました。 【課題】補助金を申請する学校に伸び悩みが見られます。 【今後の取組】より補助金を使いやすいように金額の増額を行うなど、補助内容の見直しを行います。 【決算】ボランティア活動育成事業 83,445 円
敬老作文募集事業	【概要】敬老をテーマにした作文に取り組むことで児童が高齢者への理解を深め、敬老の心を培う事を目的に市内の小学校を対象として依頼し作文を募集し、元教員、児童福祉関係者等 9 人の審査により、最優秀 6 点、優秀 18 点を選びました。受賞作品は、社協だよりのほか、学校や企業の協力を得て、地元新聞へ掲載しました。また、K-ネットにおいて最優秀児童の作文朗読出演のほか、受賞作品の作文集を作成し、関係者に配付する予定です。 【実績】 応募学校数：市内 11 校 応募総数（学校への提出作品）：115 点

	各学校からの選考作品数（審査対象作品）：42 点 受賞作品総数：24 点 【成果】作文に取り組むことで高齢者に対する理解促進と思いやりやいたわりの心を培うことの一助となりました。 【課題】審査会において、毎年のように誤字脱字の指摘があります。学校へ結果報告する際に、審査員からの指摘事項などとしてお知らせしていますが、なかなか改善されない状況です。また、応募規定の条件を満たしていない作品の応募が数点あり、審査対象外としました。 【今後の取組】応募要綱や作品募集文書の中に、誤字脱字についての確認や応募規定を満たした作品の提出をお願いする文言を記載します。また、学校数及び児童数が減少する中、本事業の在り方や実施内容を検討する必要があります。 【決算額】 397,394 円
--	---

5. 資金貸付等事業

事業名	内 容
生活福祉資金貸付事業	【概要】資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進及び在宅福祉並びに社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう資金の貸付や相談支援を行いました。 【実績】 緊急小口資金 2件 200,000円 教育支援資金 2件 6,877,000円 要保護世帯向け不動産担保型生活資金 1件 評価額 7,728,000円（貸付額7割） 【総貸付件数】（令和6年9月末日現在） （1）生活福祉資金 88件 66,174,469円 （2）コロナウイルス感染症の影響による特例貸付 ①緊急小口資金特例 122件 16,810,290円 ②総合支援資金特例貸付 165件 84,130,930円 （3）東日本大震災による緊急小口資金特例貸付 182件 14,650,950円 【成果】一時的に資金を必要とする世帯や、進学するために必要な資金の貸付を行うことで、生活の安定に繋げることができました。また、継続的な相談支援が必要と思われる方は、生活困窮者自立相談支援機関へ繋ぎ、課題解決に向けた必要な支援に取り組むことができました。 【課題】滞納世帯への対応が課題です。民生委員や生活困窮者自立相談支援機関とより一層の連携を図りながら、世帯の生活実態把握に努め、自立支援に向けた取り組みを行う必要があります。 【今後の取り組み】宮城県社会福祉協議会や担当民生委員、自立相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に努めます。 【決算額】 8,716,125円
生活安定資金貸付事業	【概要】低所得世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付を行うことにより、その世帯の自立更生を援助し、生活の安定に資することを目的として小口の貸付を行います。 【実績】 8件 403,510円 【総貸付件数】（令和7年3月末現在） 14件 450,510円 【成果】緊急に資金を必要とする世帯に対し迅速に対応することで生活の安定を図ることができました。 【課題】滞納者への対応が課題です。 【今後の取り組み】担当民生委員や関係機関と連携を図りながら、世帯の生活実態に努め、定期的に通知を送付する等償還への働き掛けを行います。 【決算額】 405,062円

6. 援護活動

事業名	内 容
交通・海難等遺児に対する 就学支援費の支給事業	【概要】交通事故、海難事故、労働災害及び病死（不慮の事故を含む。）により、扶養していた父母の一方又は双方が死亡した満18歳以下の高校在学までの者に対して、民生委員・児童委員を通じ就学支援費を支給しました。 【実績】遺児家庭 29 世帯 遺児数 42 人 贈呈金額 305,000 円 (内訳: 高校生@10,000×13 人, 中学生@8,000×10 人, 小学生@5,000×19 人) 【成果】遺児とその家族との対面での支援を通じ、相談しやすい環境づくりができました。 【課題】民生委員による金銭の見直しについて全民児連より注意喚起があり、現行の事業実施方法の見直しが必要です。 【今後の取組】次年度に向けて事業実施方法及び内容について検討を行います。 【決算額】 児童青少年福祉活動事業 310,520 円
歳末助け合い事業	【概要】気仙沼市共同募金委員会が展開する「歳末たすけあい運動」により、市民から協力いただいた歳末たすけあい募金の全額配分を受け、要保護家庭等への年末一時金及び地域福祉事業等として配分し、地域福祉の向上を図ることを目的に実施しました。 【実績】個別対象者への配分 在宅対象者 237 件 2,607,000 円 長期入院 193 件 1,544,000 円 地区社会福祉協議会への配分 16 地区 800,000 円 障害者福祉施設及び事業所等交流事業 33 件 720,000 円 新入学児童への安心安全の支援事業 320 個 258,500 円 障害・母子等福祉団体、家族会等支援事業 7 件 140,000 円 子育て支援事業 13 件 490,000 円 フードバンク活動支援事業 1 件 100,000 円 地域・子ども食堂活動支援事業 6 件 300,000 円 地域見守り活動支援事業 2 件 60,000 円 【成果】「子どもの安心安全の支援」や「見守り訪問活動」等の福祉活動を行っている地域の住民や関係機関・団体の協力により、新しい年を迎える時期に幅広い分野において支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう配分しました。 【課題】募金額の減少により、個別配分対象者の見直しが必要となっています。 【今後の取組】引き続き、子どもから高齢者まで幅広い人々が、地域での交流を深める事業や地域の課題解決に向けた活動に取り組まれるよう配分を行います。 【決算】 歳末たすけあい募金配分事業 7,267,858 円

7. 生活支援・障害福祉事業

事業名	内 容
日常生活自立支援事業 (福祉サービス利用援助事業) 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター (まもりーぶ気仙沼・南三陸)	【概要】認知症、知的障害、精神障害等の何らかの理由で判断能力が不十分な方々が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、定期的な訪問による見守りと福祉サービスの利用援助、日常的な金銭・書類管理等のサポートを行いました。個人の権利を擁護するとともに、意思決定を尊重しながら、日常的な生活の自立支援対策として事業を実施しました。 【実績】利用者 59名 (うち認知症高齢者19名、知的障害者16名、精神障害者16名、その他8名) 【成果】加齢や障害により判断能力が不十分になった方々の、住み慣れた地域の中での生活を支える大きな役割を持った事業としての認識は深まっていると思われます。特に、訪問を行う生活支援員と定期的に関わりを持っていただけることは利用される方々の安心感につながる大切な支援成果のひとつとなっています。 また、成年後見制度へいづれつながるべきケースを把握し、継続した支援の中でのモニタリングと関係機関との連携を行い、必要に応じたタイミングで制度へ繋ぐことができました。 【課題】今まで以上に専門的な関係機関との調整が必要とされ、本事業の範疇では対応困難なケースが増加しています。これまで以上の連携と協働を前提としたスキルアップと総合的な権利擁護への取り組みも必要となっています。 また、親族が高齢化や世帯状況の変化によりサポートを得ることが難しくなった方も増え、親族に関わる支援機関との連携や調整が新たな課題となっています。本事業は、他のサービスや事業では対応しづらい金銭管理に関しても支援範囲としているため、地域の福祉・保健・医療からの役割の期待は大きなものとなっていますが、金銭管理だけを目的とするサービスと見られるなど、事業の役割や対象者、支援範囲について十分理解されておらず、本来の役割以外のことを求められる等の課題も生じています。 【今後の取組】専門員の適切な配置と生活支援員を担える福祉的人材育成のほか、職員の資質向上を目的とした研修会の開催、成年後見制度への移行を見据えた体制作り等、関係機関との連携を密にしながら事業の推進と周知啓発します。 【決算額】 10,926,979 円
フードバンク事業	【概要】みやぎ生協との協定により飲食物の提供を受け、緊急時の生活支援の一助として、主に本会における資金貸付相談者で生活困窮世帯への食料支援を行ってきました。 【実績】4件

	【成果】一時的に生活が困窮した世帯に対し食料を提供しました。 また、継続的な支援が必要と思われる世帯は、生活困窮者自立相談支援機関へ繋ぎ、スムーズに支援が行うことができるよう情報の共有に努めました。 【課題】在庫の状況により、提供可能な食品と数に変動があります。 【今後の取組】引き続き、一定の食料を確保しながら生活困窮者への緊急対応として、事業を継続します。
ガイドヘルパー派遣事業	【概要】視覚障害者の社会参加を支援し、社会生活範囲の拡大と福祉の増進を図ることを目的に、視覚障害者介添人の派遣を行いました。また、視覚に障がいのある方へのボランティア養成講座を開催し、活動者の育成を図りました。 【実績】活動延人数 36 人 (前年度 40 人) 依頼件数 30 件：実人数 2 人、1 団体 (前年度 37 件) 【成果】個人利用では通院などを中心に利用がありました。また、コロナ禍の影響により自粛傾向だった視障協の活動が今年度より通常通り開催されるようになり、依頼の増へと繋がっています。 【課題】利用希望日に調整ができない場合など、お断りするケースもあります。 【今後の取組】ガイドヘルパー連絡会を実施し、活動者からの事業に対する意見を頂くとともに、活動者同士の交流と情報交換を図ることで、より一層のサービスの充実を図ります。 【決算額】 障害児者福祉活動事業 138,779 円
視覚に障がいがある方へのボランティア講座	【概要】視覚障害に関わる知識や日常生活における基本的な支援方法を学ぶ機会を提供することで、視覚に障がいがある方をサポートする人材を育成することを目的として開催しました 【実績】日 時：第1回 令和6年7月31日（水） 第2回 令和6年8月2日（金） 第3回 令和6年8月19日（月） 時間はいずれも午前10時から午後3時 場 所：気仙沼市中央公民館 参加人数：6名（ガイドヘルパー3名、一般参加者3名） 【成果】3回コースで開催し、3名の方に新規活動者としてご登録いただきました。 【課題】平日のサービス利用ニーズが多いことから、比較的参加し易い土日の開催ではなく、平日開催として進めましたが、午前から午後にかけて平日の全3日間のスケジュールということもあり、参加者が少ない講座となりました。 【今後の取組】実際に講座に参加される方は少ない結果となりましたが、手引きサポートボランティアの活動についてはお問合せをいただくことも多く、住民からの関心は高いものと思われます。視覚に障がいのある方への手引きサポートを行うという活動の性質上、講座の時間を減らす

	ことは難しいですが、単発の講座を年に数回開催し、住民の興味関心を高めていくなど、開催の工夫について検討します。 【決算額】 障害児者福祉活動事業 71,143 円
録音サービス事業	【概要】地域のボランティアである「朗読奉仕あいの会」や「個人ボランティア」、「本吉響高校生徒」の協力を得て、「広報けせんぬま」・「社協だより」等を朗読録音し、市内の視覚障害者の方へ送付しました。 【実績】発行回数 気仙沼 12 回 利用者数 14 人 本吉 12 回 利用人数 2 人 【成果】視覚障害者の方へ情報提供を行うことができました。 【課題】高齢化や機器の都合により、利用者と活動者共に減少傾向にあります。 【今後の取組】引き続き情報提供に努めます。また、利用者と活動者が共に減少傾向にありますが、現行はカセットテープを用いてのサービス提供となっており、新規利用者については募りにくい状態となっています。視覚に障がいのある方への情報発信ツールについての情報収集を行うなど、事業の在り方を検討します。 【決算額】ふれあいのまちづくり事業 3,000 円
朗読ボランティア講座	【概要】視覚障がい者への情報提供の一環として、視覚に障がいがある方へ朗読テープをお届けする朗読ボランティアの養成を目的に開催しました。 【実績】日 時：令和7年3月18日（火） 場 所：気仙沼市市民福祉センター「やすらぎ」 参加人数：22名 【成果】視覚障害や音訳について、市民の方々に学んでいただくことが出来ました。 【課題】講座内容が既に活動している方のフォローアップとなっしまい、新しい活動者の育成には繋がりませんでした。 【今後の取組】改めて発音などの基礎技術を学べる講座を開催し、ボランティアの育成を図ります。 【決算】ふれあいのまちづくり事業 2,700 円
点訳サービス事業	【概要】依頼を受けた資料を点訳しています。 【実績】点訳依頼件数 1 件（前年度 1 件） 【成果】点訳資料の作成により、視覚に障がいのある方へ円滑な情報の提供を図ることができました。 【課題】現在、市内に点訳ボランティアがいないため、本会職員が資料作成を行っています。点訳ボランティアの育成については、宮城県視覚障害者情報センターが実施する「点訳奉仕員養成講座」を修了していただく必要があり、また、点訳の依頼自体が少ないため、積極的な養成を行うことが難しい現状にあります。 【今後の取組】宮城県視覚障害者情報センターが実施する「点訳奉仕員養成講座」については情報を収集しつつ、事業の在り方について検討を

	行います。 【決算額】 ふれあいのまちづくり事業 8,610 円
障害者との交流事業	【概要】障害のある方とその家族等が、地域住民や関係機関等との交流を通して、顔の見える関係の構築と相互理解の促進を図るとともに、障害に関する事業やサービス、制度について啓発し、障害への関心を深める機会となるよう実施しました。 【実績】 ①みみサポサロン 日 時：令和 6 年 7 月 12 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分 場 所：市役所ワンテン庁舎 大ホール 参加者：25 名（聴覚障害者 13 名、聞こえにくい 4 名、健聴者 8 名 内 容：ニュースポーツ体験を行いました。高齢の参加者を積極的にサポートしてくれる方、盛り上げ役の方、職員の手伝いをしてくれる方など、障害の有無に関わらず、それぞれが役割をもって参加し、楽しむ様子がみられました。 ②ユニバーサル交流会 日 時：令和 6 年 11 月 30 日 午前 11 時から午後 2 時 場 所：市民福祉センター やすらぎ 来場者：約 180 名、参加事業所：4 事業所、協力団体等：4 団体 内 容：市内の就労支援事業所紹介及び販売、手話や点字、障害者スポーツ、ぬり絵ワークショップ、餅つきなど体験をメインに実施しました。障害者だけでなく地域住民の参加も多くあり、参加者同士が交流しながら楽しむ様子が見られました。 【成果】内容や周知方法を工夫したことで、障害の有無に関わらず多くの方に参加してもらうことができました。みみサポサロンについては、情報保障があるという安心感が参加者同士の積極的な交流に繋がりました。また、ユニバーサル交流会では、就労支援事業所の紹介や障害に関するパネル展示の他、ワークショップ等の体験を通じて交流することで、障害に対する理解促進に繋がりました。 【課題】事業実施にあたり、障害の特性や支援の必要性について理解し、一方通行な内容にならないような工夫や関係機関との連携、協働による実施が必要です。 【今後の取組】多くの方に障害に対する理解を深めてもらえるよう、各関係機関や地域団体の協力をもらいながら、障害者福祉週間での実施を継続します。 【決算額】①65,873 円 ②181,705 円